

53 一致

一致 (agreement) とは、文中の2つ以上の要素が数・人称・性・格に関して、相互に一定の形態的特徴を示すことをいう。一致は**呼応 (concord)** とも言うことがある。例えば、次のようなものがある。

(1) 主語と動詞の一致

- a. My daughter watches television after supper.
- b. My daughters watch television after supper. (Quirk et al. 1985: 755)

(2) 代名詞と先行詞の一致

- a. They did the work themselves.
- b. He did the work himself. (McArthur et al. 2018²: 19)

(3) 指示形容詞 (this, that, these, those) と名詞の一致

- a. That book seems interesting.
- b. Those books seem interesting. (ibid.)

(4) 主語と主格補語の一致

- a. My child is an angel.
- b. My children are angels. (Quirk et al. 1985: 767)

(5) 目的語と目的格補語の一致

- a. I consider my child an angel.
- b. I consider my children angels. (ibid.)

(6) 同格語と主要語の一致

- a. Mr Campbell, a lawyer, was here last night. (ibid.: 1304)
- b. we doctors (ibid.: 352)

以下では主語と動詞の間での数に関する一致について見ていくことにする。

まず、数詞＋複数名詞の場合、単数として扱うことがある。(7a) では *ten years* を単数呼応していて、(7b) では複数呼応している。

(7) a. Ten years *is* a long time.

- b. Ten years *have* passed since we got married.

(7a) で、形態上は複数形であるのに、単数扱いをしているのは、「ひとまとまりのもの」と捉えているという概念的な一致と思われる。*Fish and chips* が形態上は複数であるのに単数扱いがなされるのも概念上の一致である。

(8) *Fish and chips is no longer cheap.* (McArthur et al. 2018²: 20)

集合名詞は、単一集合体と捉えられる場合には単数扱いにし、個々の成員が考

えられている場合には複数扱いにするとされている。

(9) a. All his family *are* early risers.

b. His family *is* a big one.

(安井 1996: 65)

イギリス英語では、集合名詞は複数の一致がよく使われるようである。

(10) a. *The opposition* *seem* divided among themselves.

b. *The committee* *have* decided to increase the annual subscription.

(McArthur et al. 2018²: 20)

この場合、文法上の一致ではなく、意味による概念上の一致が起きていると言える。文法的には主語の名詞句は単数形だからである。

Neither A nor B で B が単数の場合、規範的には単数の一致とされているが、複数の一致を使う話者もある。

(11) a. Neither John nor Mary *knows* about it.

b. Neither John nor Mary *know* about it.

(ibid.)

この例で、単数の一致をする場合は、近接性の条件に従って動詞に近い方の名詞句と一致しているのに対して、複数の一致をする場合には、「両方ともそうではない」という意味から来る概念上の一致をしていると考えられる。

また、None of + 複数名詞の場合は、単数の一致をする話者も複数の一致をする話者もある。

(12) a. None of the bodies so far recovered *was* wearing life-jacket.

b. None of the bodies so far recovered *were* wearing life-jacket.

(ibid.)

None of + 複数名詞は、規範文法的には単数扱いであるが、「複数のものがそうではない」という意味から、概念上では複数扱いになると考えられる。

More than one + 単数名詞は意味的には複数であるが、単数で呼応する。

(13) More than one writer *is* interested in the story.

(安藤 2005: 683)

これは、近接性の条件に従っていると言える。

One of + 複数名詞は単数の一致をするとされている。

(14) a. One of your friends *is* here.

b. *One of your friends *are* here.

(McArthur et al. 2018²: 20)

しかし、実際の言語使用の場面では、(14b) のように複数呼応が見られるようである。この場合には近接性の条件が働いていると言える。

(野村 美由紀)